
two love

Y S

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

two love

【Nコード】

N0888D

【作者名】

YS

【あらすじ】

これを読む前に自分の大切を思い浮かべて下さい…。読み終わった後に大切な人と向き合ってもう一度向き合ってみて下さい。

two love

翔と出会ったのは5ヶ月まえでした。

仕事場の友達の紹介してもらった元カレの大親友でした…。

私が敬太（元カレ）19歳と付き合い始めたのは今から5ヶ月まえでした。

敬太とは最初はメールだけだったけど話しが合って気が合ったので付き合おうかみたいな感じになって付き合いました。

敬太は仕事が忙しくて日曜日しか会えなかった。

でも別に寂しいとかそういう感情は全然なかった。

敬太と付き合って2ヶ月目くらいにダブルデートしようかって話しになって、夜の9時位に公園の前で待ち合わせをした。

敬太や相手のカップルはすでに到着していたが、時間にルーズな私は30分くらい遅刻した。

敬太に

「おせーよ！」と怒られた。

「ごめんごめん笑」と私は笑ってごまかした。

敬太が相手カップルの紹介をした。

それが翔だった。

敬太は翔の方に指をさして

「こいつは翔！俺のダチ！！」と紹介した。

私はなにも言わず頭を下げた。
そして翔の彼女の方にも頭を下げた。

翔の彼女は私より一つ下の16歳だった。

翔は敬太を紹介してくれた友達のお兄さんだった。

翔の妹と仲良しな私は妹から翔のことあんまり良い風には聞けなかった。

もと暴走族の総長だったとか、

女とは真面目に付き合わないでやったらその日で捨てるとか…。

私の中の翔のイメージは最悪な男！！だった。

その日以来敬太とデートは翔の家に行く事になった…。

でも話してるうちに翔がそんなに悪い人には思えなくなってきた。

話してて凄く楽しかった。

いつのまにか翔の家に行くのが楽しみになってた……

敬太と話してて翔の話するとめっちゃ怒られた。。

それでもやめられなかった。

私は次第に翔に惹かれていった…。

私は決断した。

敬太を呼び出した。

敬太は

「どうしたの？珍しいやん！」
と言った。

私は

「別れよう…。敬太の事は好きだけどそういう対象では見られない。」

「

沈黙が続いた…。

敬太は怖い口調で

「なんでや?? 言えよ」と言った。

私は

「好きな人が出来たの。」と答えた。

敬太は

「翔か??」と言った。

「うん…」私は静かにうなずいた。

敬太はこのままで済むと思うなよと言って帰って言った…。

私は凄い恐怖を感じた。

でもなにがあっても翔の事好きな気持ちは変わらない。

敬太と別れて1週間後の土曜日、私は翔の妹の由紀子にCDを貸す約束していた。

でも由紀子は携帯が止まっていて連絡が取れなかった。

諦めてたその時、知らない番号から電話がかかって来た!

出してみると翔の声だった!!

翔が

「今日由紀子と遊ぶんだよね? 由紀子携帯止まってるから俺が電話かけたんだけど。」

私は今すぐ行くと言ってすぐに出かけた。

家に着くとそこには敬太の姿もあった…。

私はどうしよと思いいながらも座った。

敬太と翔は仲良くゲームをしていた。

私は由紀子のベッドで二人がやってるゲームを見ながら寝転んだ。

と、途中で翔がベッドに座って来た！！私はドキドキしていた。
翔はいきなり手を握ってきた…。

敬太がいたので掛け布団で繋いでる手を隠した。

私はなんの抵抗もなく手を握り返した…。

例えこれが遊びだとしても幸せだった…。

翔がトイレに行って来ると言っただけで席を外した、その瞬間、敬太が手を握ってきた。

敬太は

「やっぱり別れたくない！！俺はお前しかいないんや」と言ってきた。

そこに翔が戻って来た！！

翔は私と敬太が手を繋いでるのを見て血相を変えた。

翔は私と敬太の間に割り込んできた。

敬太は手を放した。そして翔はまた手を握ってきた。

今度はさっきより倍強く握ってきた。

夕方くらいになると敬太は用事があるからと言って帰っていった。

私も帰ろうとしたら翔が

「今日泊まっていて」と言った。

私はびっくりしたけど迷いはなく、

「うん！泊まっていく！」と言った。

私と翔は自動販売機に向かった。

私は敬太と別れた事を翔に話した。

翔は

「知ってる」と言った。

そして

「これからは俺がお前のそばにいてやる」と言ってくれた。

嬉しかった…。

今まで女の子を使い捨てしてきた最悪な男の子が私を初めて女として見てくれて本当に嬉しかった。

そして私と翔は付き合い始めた。

毎晩毎晩翔からの電話が嬉しかった。

ちよつと私からの返事が遅いとなんかあったのかと思って何回も電話をかけてきたり……笑

そしてすぐ私の事馬鹿にする…。

「恵里佳は馬鹿だからな、俺がいないとなんにも分からないやろ??笑

しょうがないから死ぬまでそばにいてやってもいいよ??」なんて言う。

本当に翔が大好き!!!!!!

「これからもそばにいてね!!」

「え、まあしょうがないから一生一緒にいてやるっ!!」

この幸せが続くと思っていた……………

ある日、いつも通りに仕事に行く。

リーダーさんから新しいバイトの子が入ったと聞かされた。

どんな子かなあ??と楽しみにしていた。

敬太だった!!

私はびっくりした。どうして敬太がここにいるの!?

私は敬太を避けた。

仕事は夜10時に終わった。

私は歩きで家まで帰る。

後ろから誰か付けてくる！！

私はおもいきり走って逃げた！！

でも無理だった…。捕まってしまった…。

私は降りきろうとした、力が強くてふりほどけなかった…。
相手の顔を見た。

敬太だった！！！！

私はそのまま押し倒されてやられた…。

なにが起こったのか分かんなかった…。

私は翔に電話をかけていた。

「恵里佳？？どうした？」

翔の優しい声だあ…。

私は泣くしかなかった。

「ごめんねごめんね…」しか言えなかった。

「今何処だ？」

「仕事場の近く…」

「今から行くから、そこから動くな！」

絶対動くなよ！」

翔はバイクですぐに来てくれた。

そして私を強く抱きしめてくれた…。

翔の目からは涙が流れていた。

「ごめんな、守ってやるって約束したのに、本当にごめんな。俺彼氏失格だな」私は

「そんな事ない！！翔は彼氏失格なんかじゃない！全部私が悪いの！！だから翔が悪いんじゃない！翔が悪いんじゃない！」
私は必死に泣きながら叫んだ。

翔キスをしてくれた。

「帰ろっか」

「うん」

翔は家まで送ってくれた。

次の日。

翔から電話がきた。

「昨日恵里佳送った後敬太に会いに行った。次恵里佳に手を出したらただじゃおかないからって言っというた。
だからもう安心していいから。」

「アリガト。あの事はもうなかった事にしよ。お互い辛いし…」

「わかった。」

俺恵里佳が好きだ！！」

「なによいきなり」恵里佳もだよ」

「うん、分かってる だから絶対結婚しよーな！！」

「絶対だよ！！約束だからね！！」

「おう！！約束な！指切りげんまん嘘ついたら」

「はりせんぼんの〜ます」

二人で笑った。
楽しかった。

翔はいつだって恵里佳の事考えてくれた…
幸せだった……………

ある日の午後5時17分
今でも忘れる事のない時間…。

私に一本の電話が入った。
翔のお母さんからだった…。

翔がバイクで帰る時にトラックに接触して今病院に運ばれて意識不明だと……

私は目の前が真っ白になってその場に立ちすくんだ。

座ってる暇はない。病院に行かなきゃ
病院に……………。私は慌てて家を出た。
タクシーを拾って病院に急いだ。
この時私はタクシーを初めて遅いと感じた。

病院に着いた。

翔はすでに息をしていなかった…。

私はすぐに翔の手を握った。

眠っているかのような穏やかな顔している。

「翔早く起きてよ…。いつまで寝てるの??」

問いかけても返事はない。

体を揺すっても反応がない…。

「なんで起きないのよ!!」

早く起きてよ!起きていつもみたいに恵里佳の事抱きしめてよ!!

翔の声聞かせてよ!!目開いて私の事ちゃんと見てよ!

一生一緒にいてやるって言ってたじゃん!幸せにしてやるって…結婚しよって約束したじゃん!

二人で指切りげんまんしたじゃん!!

恵里佳には翔がいないとダメなんでしょ??

翔、恵里佳にそういったよね??

恵里佳これからどうすればいい??

ねえ答えてよ!」

結局最後まで翔は目を開けることはなかった…。

翔のお葬式が終わった後翔のお母さんに呼び出された。

そしてクシャクシャな小さい箱とクシャクシャの手紙を渡された。
開けてみると綺麗なネックレスが入っていた。

「なんですかこれ？」と訪ねた。

「翔があなたとの記念日だからって買って買いに行ったものよ。その帰りに……」お母さんは声を震わせて涙を拭った。

そして

「翔みたいな子を好きになってくれて本当にありがとう。翔も凄い幸せだったと思うわ。これからも翔の事忘れないであげてね」

私は涙で言葉が出なかった。

帰り道私はいろんな事を思い返した。

この道翔と手を繋いで歩いたなあ。

今でも翔が隣にいるような感じがした。

翔に会いたい翔に会いたい！！

私は翔のお母さんからもらったクシャクシャの手紙を思い出した。

手紙を開けた。

恵里佳へ

今日は俺と恵里佳の記念日だよなっ！！3ヶ月！！

あっという間だったな！

そしてこれからも一緒にいような！！

ずっとずっと俺が幸せにしてやる。

だから結婚してくれ！！約束だからな！これお前に似合うと思って
しょうがねえから買ってやったよ！
毎日毎日毎日つけるよ！

つけねえと怒るからな！！笑

恵里佳本当に愛してる

翔より

私は自然と涙が溢れていた。涙で文字がにじんだ。

翔の馬鹿…

恵里佳だって翔の事本当に愛してるよ。ありがとう

翔といた時間はかけがえのない時間でした。

いっぱいいっぱい幸せをありがとう…

いっぱいいっぱい抱きしめてくれてありがとう…

初めて好きになった相手…

初めて重なった相手…

初めて手を繋いだ相手…

そして私に初めて愛する意味を教えてくれた人……。

翔の事は絶対絶対絶対に忘れない。

だから翔も天国に逝っても恵里佳の事忘れないでね…。

また生まれ変わっても恵里佳の事好きになっただね。

本当に本当に何回言っても足りない位に大好きだよ。

本当に幸せでした…

アリガト…サヨナラ…

そしてこれからも永遠に愛してる。

私の心の中に翔はずっと生きつづけてる。

私は翔からたくさん数えきれないほどの大切な事を教えてもらいました。

私は翔がいたから、笑顔になり、人に優しくなれて、素直になれて、人を心のそこから愛せる事ができました。

みなさんも一度大切な人と向き合ってみてください。

私はこれからも生きつづけます。

これから先どんな事に衝突するか分からないけど、私は翔に教えてもらった事を活かして生きていきたい。

天国の翔へ…

こんなワガママな恵里佳の事愛してるって言ってくれてアリガト…
いろいろ教えてくれてアリガト…

たくさんの愛をありがとう

もし願い事が一つ叶うなら、私はもう一度翔の笑顔が見たいです。

翔会いたい………

また会えるよね？

君は今笑ってますか？？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0888d/>

two love

2010年12月7日02時11分発行